

## ティーチング・ポートフォリオ

鵜沼 秀行

(記入日：2019年 8月 3日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

心理学統計法 (1年前期必修科目 2単位)、心理学統計法 (応用) (1年前期選択必修科目 2単位)、心理学実験 (基礎) (応用) (2年前期必修科目、後期選択必修科目、各 2単位)、認知心理学概論 (2年前期選択必修科目 2単位)、心理統計法特講 (1) (2) (大学院前期、後期選択必修科目、各 2単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、学生が科学的方法によって心を理解し、さらに自ら問題を具体的に設定し、身の回りの人的・文化的資源と積極的に関わりながら、主体的に問題解決に至る態度を身につけることである。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学生が主体的に学習を進める機会を作るために、心理学統計法においては、各自が使用する PC を用意した。基礎実験演習では、実験の実施、データの分析に当たって、各自が考える時間に加えて、図書館のグループ学習室などを利用して、学生相互が協力・相談し最終的にレポートを完成するように指導をした。心理学統計法、認知心理学概論では、ホームページ上に講義資料を掲載し、事前事後の学修を促した。大学院では、大学のクラウド (Office365) 上に資料を用意し、常時使える体制をとった。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

心理学統計法においては、学生相互が自主的に学びあうとともに、授業時間外に学修の時間を設けていることが確認できた (エビデンス 1)。基礎実験のレポート作成においては、専用の教材を使用し (エビデンス 2)、昨年度よりもレポートの質を高めることができた。ホームページ、クラウドの資料は、一部の学生には利用されたが、十分な効果を得るには至らず課題を残した (エビデンス 3)。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

心理学実験などで、学生同士が授業時間外に相談、議論し、資料収集、データ収集分析、レポート検討を行う機会を増やす (ラーニング・コモンズ)。また、ホームページやクラウドの資料を使った事前事後学修を、より具体的に促す。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- 1 リアクションペーパー (非公開)
- 2 テキスト 長谷川桐・鵜沼秀行 (2017). テンプレートで学ぶ はじめての心理学論文・レポート作成 東京図書
- 3 授業のホームページ

(<http://hideyukiunuma.wixsite.com/visualperception/blank>) 公開

Office365

(<https://outlook.office.com/owa/?path=/group/stats.grad@kgwu.ac.jp/files>) 非公開

## ティーチング・ポートフォリオ

田中 裕

(記入日： 2019年 2月 23日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎実験演習 (1) (2) (2年前期必修科目、後期選択必修科目、各2単位)、生理心理学 (3年前期選択必修科目2単位)、心理学 (1) (共通教育科目2単位)、心理行動科学研究法 (1) (大学院前期、前期選択必修科目、各2単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、学生自身にも内在している身体および脳の視点から心を理解することである。日常生活の中に根づいているこの視点を出発点として、自ら問題を具体的に設定し、身の回りの人的資源も使って主体的な問題解決に至る方向へ導くよう心がけている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

自身に内在する視点から主体的な問題設定から解決に至る機会を作るために、心理学 (1) では多くの授業テーマで脳や身体に帰結するようにした。基礎実験演習では、自身の自律神経系活動をデータとして扱い、相互協力によるレポート課題解決から、心と身体に関連を明確化させた。生理心理学および心理行動科学研究法 (1) では、脳・身体活動の測定・データ解析から心と身体に関連理解を促した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

心理学 (1) では、日常生活においても脳や身体を心と関連づけて考えることが確認された。基礎実験演習ではレポート作成時に配布資料を用意して内容理解の促進を心がけたが、十分な成果は得られなかった。生理心理学および心理行動科学研究法 (1) では、脳・身体活動の測定及びデータ解析技術の習熟度が不十分で、内容理解が浅くなってしまった (全てエビデンス1)。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

どの授業においても、主体的な問題解決する方向を向かせることはできたと考える。しかし、実際の問題解決時における基本知識の弱さが露呈した (特に基礎実験演習)。そのため、新たな資料を用意した上で事前事後学修を促したい。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- 1 リアクションペーパー (非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

西川將巳

(記入日：2019年 9月 23日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

<大学院>

#心身医学 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)

#臨床心理実習／臨床心理実習 II (SuperVision/CasePresentation 指導)

<学部>

#心理療法各論 I (認知行動療法)

#心理実習 (入門)

#心理学演習

#スポーツ・健康心理学

#解剖生理学<生活文化学科選択必修科目／他学科開放科目>

#運動生理学<生活文化学科選択必修科目>

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

自らが培ってきた心身医学的臨床・研究における知識や経験をもとに、臨床心理の道を志す学生や臨床心理に興味を有する学生達に、その有意義さや深淵さを心行くまで伝授すること。そして、人の心にしっかりと共感でき、心身の健康の大切さを理解し、社会に貢献出来得る後進の育成に携わること。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

「心身医学」の講義では、まずその基本的な知識や技法を、単なる座学のみならず、様々な事例を提示したり、学生同士で Discussion させながら習得・習熟させるようにしている。「臨床心理実習」においては、実際に心理相談センターに来院されるクライアントのインテークに同席させたり、治療面接に携わらせている。さらに、その面接の都度、毎回、詳細かつ懇切丁寧な SuperVision を行ない具体的、実践的指導を行っている。

「心理療法各論 I (認知行動療法)」においては、基礎的な知識を身に付けさせようとして、Group Discussion させたり、学生同士で、治療者とクライアントの役を相互に交代させながら、実践的な面接・治療の進め方を体験・理解させている。「心理実習 (入門)」では、学部1年生に、しっかりと実習の心構えを指導・理解させた上で、実際の心理臨床の場を体験・見学させている。「心理学演習」では、学部3年生に心理学的研究の基礎を理解させ、具体的に論文・研究の進め方を指導している。(共に図書館へ行き、参考文献の調べ方を教示したり、生理学的機器の取り扱い方を教えた上で、実際にデータを取らせたり、そのローデータ処理の仕方や結果を解析ソフトを使いながら出力させ、さらにそれらのデータを統計ソフトを使い解析させ、その結果を考察させている。)「スポーツ・健康心理学」では、健康スポーツ医としての知識をもとに、スポーツ、健康という観点から心理学的基本的知識を習得させた上で、実際に生理学的データを取らせたり、心理テストを体験させたりしている。「解剖生理学」「運動生理学」では、栄養士や医療秘書を目指す学生たちに、一般の教科書だけでは足りない、解剖学的図譜を追加で示したり、DVD を見せたりしながら、イメージとして脳裏に定着できるような講義を行っ

ている。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

大学院の臨床志望の学生たちの多くは、これまで臨床心理士や公認心理師の資格を取得し、様々な臨床の現場で活躍している。学部の学生も、公認心理師資格取得を目指している学生が増えて来ている。臨床以外の道を志す学生や、栄養士や医療秘書を目指す学生たちも、基本的知識を身に着け、無事、卒業し、自らの進むべき道を歩んでいる。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

これまで通り、自らの教育理念のもと、真摯に、学生たちを教授して行きたい。学生すべてが、自らの目指す社会人として、成長して行かれんことを願う。今後も、そこが目標であることは変わらない。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

これは、私だけの力ではなく、多くの心理の先生方のおかげであり、そして、何よりも修了生自身の努力の賜物であると思うが、これまで、当学大学院の修了生の140名以上が臨床心理士として社会で活躍している。また、多くの修了生が、昨年度より国家資格化された公認心理師資格を取得している。

<参考資料（一部）>

#小島有里子・西川将巳「高齢者の認知機能障害と抑うつ状態からみた4類型の特徴」

川村学園女子大学大学院研究年報（第5号）2016年1月

#藤井くるみ・西川将巳「就寝前におけるネガティブな反すうが抑うつおよび不眠に与える影響」川村学園女子大学大学院研究年報（第7号）2018年1月

#小島有里子・西川将巳ら「パーキンソン病及び、認知症を含むパーキンソン病関連疾患等における表情認知機能の特徴」川村学園女子大学大学院研究年報（第8号）2019年1月

#北島智子・田中裕・西川将巳「認知症高齢者における「タッチケア」のリラクゼーション効果」川村学園女子大学大学院研究年報（第9号）2020年1月（刊行予定）

(記入日： 2019年 9月 22日)

**1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)**

「心理学演習」「社会心理学概論」「コミュニケーション論」「対人関係論」「集団心理学」「特殊実験演習」「心理調査概論」「特殊研究」「卒業論文指導」など

**2 理念 (なぜやっているか：教育目標)**

教育理念・教育目標として、学生が心理学に係わる学修を通じて、様々な問題意識を持ち、それらの問題を多角的に考え、主体的に問題解決を行い、社会に貢献していく態度や能力を身に付けることが挙げられる。

**3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)**

学生が主体的・実践的に学修を進めることを目指して、授業等での工夫を行った。心理学演習などの授業では、文献検索・収集、発表資料の作成、発表、討論を行い、各自が問題意識を持ち、学修を深められるように指導した。特殊実験演習、心理調査概論などの授業では、実験・心理検査実習を行い、実験の目的、方法、結果のまとめ方等を説明した後、学生相互で協力して実験・調査等を実施し、レポートを作成するように指導した。また、コミュニケーション論、対人関係論、集団心理学などの授業の中では、講義にあわせて、グループディスカッション、ディベート等を適宜用いて授業を行った。

**4 成果 (どうだったか：結果と評価)**

心理学演習、特殊実験演習、心理調査概論などにおいては、学生が主体的・実践的に学修を進め、授業時間外にも学修のための時間を設け、教員からの指導や支援を生かして、発表やレポート作成の質を高めていったことが確認できた(エビデンス 1)。一方、学修成果や学修意欲にグループ差や個人差が生じることもあり、個別の支援をあわせて行いながら、そうした差異に柔軟に対応していくことは今後の課題と考えられる。

**5 今後の目標 (これからどうするか)**

学生が学修の意義や目的を理解し、自ら学修意欲を持って学修に取り組めるよう、授業内容及び授業方法等を今後も工夫していくことが挙げられる。

**6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)**

- 1 リアクションペーパー(非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

松岡靖子

(記入日：2019年9月23日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (1年前期必修科目2単位)、心理学概論 (1年後期必修科目2単位)、心理学演習 (3年通年必修科目4単位)、特殊実験演習 (3年通年選択必修科目2単位)、発達心理学 (2年前期必修科目2単位)、乳幼児・育児心理学 (3年後期選択必修科目2単位)、生涯発達心理学 (3年前期選択必修科目2単位)、障害児心理学 (3年後期選択必修科目2単位)、キャリアプランニングⅣ(1)(2) (3年前期・後期選択科目各2単位) 臨床心理基礎実習 (大学院1年前期選択必修科目2単位)、臨床心理実習・実習Ⅱ (大学院2年前期、後期選択必修科目各2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が心に関する幅広い知識を得ることによってその知識を通して学生自身の経験や世の中で起こっている問題を新たな視点から見つめ直し、更に主体的に問題解決の方策を探っていく方法と態度を身につけることを目標として教育を行っている。それにより川村学園女子大学が目指す、激しく変化する社会を柔軟に乗り越えるための「教養」を身に着けた自覚ある女性を育成することができると考えている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

どの講義においても、学生が心理学の知識を自分の経験や世の中の問題とつなげて理解することができるように、知識とつながる具体的な例を多くあげながら解説している。また基本的に1回の講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、リアクションペーパーに書かれた質問は可能な限り次回講義のはじめに取り上げて回答し、疑問を残しておかないようにするとともに、一方通行ではなく相互のやり取りで講義が構成されるという実感を学生にもたせるように工夫している。

基礎ゼミナールでは学生がグループで協議する課題を多く設定し、学生同士の相互理解を深めながら課題に取り組む時間を作った。期末課題としてレポートを課す場合には自らテーマを考え設定するような課題を設定した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

発達心理学・生涯発達心理学については、学生がそれぞれ自分の経験とつなげ合わせながら理解を深めていることがリアクションペーパーで確認された。基礎ゼミナールにおいては、はじめは対人関係を苦手とする学生も多くみられたが、期末近くになるとともに学生同士がどのような組み合わせであってもコミュニケーションが活発に行われるようになっていった。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

学生がより社会的事象に興味関心を持ち、心理学的視点から考えることができるよう

に事前事後学修を具体的に促していく。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. リアクションペーパー（非公開）
2. 前期末レポート（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

心理学科 佐藤哲康

(記入日：2019年 9月 25日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

教育・学校心理学 (2年前期選択必修科目2単位)、青年心理学 (2年後期選択必修科目2単位)、教育心理学 (全学科共通教職必修科目、1年後期必修科目、各2単位)、教育相談 (全学科共通教職必修科目、2~3年後期必修科目、各2単位)、心理療法各論 I (大学院後期選択必修科目2単位)、など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

授業で到達することを期待する理念と教育目標は、これまでの実践家としての経験を活かし、現状を伝えることである。担当する授業は刻々と変化する現代の社会問題を踏まえた内容である必要があるため、学生には授業を通して問題意識をそれぞれが考える柔軟な思考力を身につけることを目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学生一人ひとりが能動的な姿勢で授業に参加するために、バラエティーに富んだ仕掛けのある教材を提供している。特に教育・学校心理学と青年心理学では映像資料やICTツールを多用して、文献からだけでは伝わらない授業を提供している。教育相談と心理療法各論 I では映像資料では分かりにくい生きた教材として、担当教員によるデモンストラーションを例示して、感じたものや考えたものを教員-学生間で即時共有できる工夫をしている。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

教育・学校心理学と青年心理学では何気なく理解していた事象について新たな視点から専門的な理解を得ることができ、改めて注意深く学習したいという好奇心と向学心につなげることができた (エビデンス①)。教育心理学と教育相談では教職課程の必修科目としての受動的な授業態度ではなく、自らの教師像を想像しながら応用的な問題解決力を高めることにつながった (エビデンス①)、また最新のコアカリキュラムに対応した教材を提供することができた (エビデンス③)。一方、事前・事後学修を授業内で毎回確認することができず、授業内容の理解と定着に個人差が生まれているように思われる (エビデンス②)

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

授業で使用した資料やデータについては授業時に配布するだけでなく、学生が学内外からいつでも Web を通して取得できるような環境を整備し、予習・復習による効果的な学習の定着を目指したい。またクリッカーを用いた ICT 双方向授業の導入も計画している。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

①質問・感想シート (非公開)

②講義要綱 (公開)

③出版物 会沢信彦編著 (2019). 教育相談の理論と方法 北樹出版



# ティーチング・ポートフォリオ

北原 靖子

(記入日：2019年 9月 26日)

## 1. 教育の責任 (担当科目)

心理学演習 (3年通年必修)、特殊実験演習 (3年通年選択必修)、心理学実 (基礎) (2年前期必修)、発達心理学概論 (2年前期選択必修)、児童心理学 (3年前期選択必修)、心理実習 (入門) (1年後期選択必修)、教育相談 (幼児教育学科2年後期選択必修)、福祉分野に関する理論と支援の展開 (大学院1年前期選択必修)、家族・集団・地域社会における理論と支援の展開 (大学院1年後期選択必修)。

## 2. 理念 (教育目標)

発達領域の心理学理論と実践を取り上げる関係上、知識や情報を身につけるだけでなく時間的展望の元で活用すること、ならびに、世代・性・性格・文化などによる多様性をふまえた人間性理解の視点をもつことを目指す。

## 3. 方法 (実践の工夫)

講義の中でキーワードや理論を教える際も、「どこから来て、どこへ行くのか」の問いを与え、時間的な展望を意識させている。また、「人や場においてどう変わるか」も尋ね、多様性の視点をもたせている。たとえば発達心理学では、学生は各自が固有の個性と育ちをもった主人公を設定し、各テーマ (「ストレス対処」「心の理論」「記憶」など) を巡って各時期 (たとえば「幼児期」と「成人期」) で起きるショートドラマを創造し、発表しあった。また特殊実験演習や心理実習 (入門) では、実際に地域に出かけ、多様な人々や施設について学ぶ体験活動の機会を複数用意した。

## 4. 成果 (結果と評価)

教材や参加方法の工夫により、グループワークや発表などには概ね意欲的に参加しており、成果物にも創意が伺われた (資料1)。また実習では、現場の協力を得て6か所の見学や視察を多数学生が滞りなく行い、本科目開設初年次としては所定の成果を挙げた。ただし、実習記録やアンケート調査によれば、個人差が大きい (資料2)。講義実習を問わず、体験から自分の考えを導いたり、理論を現場に適用したりする柔軟な展開力養成は課題である。

## 5. 今後の目標

資格取得の要となる実習科目について、円滑で効果的な運用の検討を進めたい。次年度から次の心理実習 (基礎) も開始するため、まなびの連続性をふまえた調整が必須である。

## 6. 資料等

資料1 リアクション・ペーパー (非公開)、ショートドラマ (講義内で紹介)

資料2 心理実習 (入門) 実習記録 (非公開)、

心理学の専門資格取得に関わる初年次教育の検討 (学内研究紀要, 審査中)

## ティーチング・ポートフォリオ

心理学科 簗下成子

(記入日： 2019年11月13日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか: 担当科目)

心理学演習 (3年通年必修科目 4単位)、心理アセスメント実習 (3年通年選択必修科目 4単位)、臨床心理学実習 (4年通年選択必修科目 4単位)、臨床心理基礎実習 (大学院通年必修科目 4単位)、臨床心理実習 I (心理実践実習) (大学院通年必修科目 4単位) 臨床心理面接特論 I,II、臨床心理査定演習 I,II (大学院前期、後期必修科目、各 2単位) 等

### 2 理念 (なぜやっているか: 教育目標)

私の教育理念・目標は、学生が臨床心理学の知識と実技を座学と演習、実習により習得し、習得した技術を心理援助に実践できることである。心理臨床専門家としての援助技法を習得する。さらに、臨床心理的援助法の開発と研究手法も身につける。

### 3 方法 (どのようにやっているか: 実践の工夫)

演習授業の場合、学生が主体的に学べるように、実際に絵画療法などを体験させ、その前後の気分変化を尺度等を用いて各種療法の効果などを記述させる。また、各種心理尺度を体験しフィードバック用のレポートを書くよう指導した。

実習授業の場合、複数教員担当の授業などでは、教員同士のロールプレイを観察させた後に学生同士のロールプレイを実演し、振り返り、ディスカッションなどを経て心理臨床専門家としての技術を研鑽させた。

### 4 成果 (どうだったか: 結果と評価)

演習授業の場合、学生が積極的に文献検索やレビューを行い、問題を見出し、研究計画を立て、実際に調査できた。

実習授業の場合、学生が実際に模擬面接を行い、インタビュー方法、利用者とのかわり方、表現方法などを学ぶことができ、大学外部での実習でも満足できる実践を行った。大学院生は心理相談センター紀要に実習実績を発表した。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

演習授業で授業外に個別に資料収集とレポート作成を行う機会を増やす。またビッグデータ等の情報に普段からアクセスできるようにする。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

授 業 紹 介 ホ ー ム ペ ー ジ :  
<https://www.kgwu.ac.jp/2016/08/03/%E3%80%90%E6%8E%88%E6%A5%AD%E7%B4%B9%E4%BB%8B%E3%80%91%E8%87%A8%E5%BA%8A%E5%BF%83%E7%90%86%E5%AD%A6%E5%AE%9F%E7%BF%92%E5%BC%88%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E7%99%82%E6%B3%95%E5%BC%89%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84/> (公開資料)

川村学園女子大学心理相談センター紀要の実習報告 (公開資料)

